

3クラス制や生徒主体の実践教育で 生徒のなかに“チャンネル”を増やす

多様化する進路に対応すべく
3クラス制を来年度から始動

安田 マルケス校長は、2023年4月に校長に就任して以来、さまざまな改革に取り組んでいらつしやいます。その一つに、中学における3クラス制の導入が挙げられますが、この狙いについて教えてください。

安田 ほかに力を入れている取り組みがあれば教えてください。

「副する学校」ではなく「応援する学校」へ



今春からスタートしたガチ・プロジェクト～中高生一緒に取り組む“商品開発”のガチプロ

マルケス 生徒の進路が多様化するなかで、従来のような画一的なクラス編成では、それぞれの進路実現に対応することが難しくなってきました。そこで、海外大学を含む最難関国立大学や医学部への現役合格をめざす「アカデミックチャレンジクラス」、PBL（課題解決型）授業を通して実践力を養い、総合型・学校推薦型選抜での進路実現をめざす「クリエイティブクラス」、部活動や作品制作に力を入れ、自分の才能を磨いていく「スポーツ&アートクラス」（2025年度から開設）の3つを設け、生徒一人ひとりの進路実現に寄り添いたいと考えたのです。すでに高校では、希望進路に合わせた2学科7クラス制を展開しているため、そこにスムーズに接続させたいという思いもありました。

安田 従来の進学校のイメージを一新させる、大胆な試みですね。

マルケス おっしゃるとおり、これまで本校は、進学校として全体的な学力の底上げをめざしてきました。しかし、希望進路の多様化や、社会に求められる生徒像の変化に合わせて、教育の在り方も変わっていかねばなりません。本校がめざしているのは、多くのオプションを提示することです。生徒たちには、複数の選択肢から、自分の希望進路に必要な

ものを選び、それを自身のキャリア構築に役立ててほしいと思っています。

安田 ことわざに「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることができない」というものがあります。ガチ・

マルケス 土曜日や平日の放課後に行っています。土曜日に関しては、これまで第2週を除いて授業を行っていましたが、今年からそれを撤廃し、生徒が自由に使える時間としました。つまり、ガチ・プロジェクトや委員会活動、自習に励んでもいいし、自分のコンディショニングを考慮して休むのも構わない、という考えです。大人に言われるままに動くのではなく、生徒自身が主体性を持ってタスクを管理してほしいと思っています。

安田 どのような時間を実施されているのですか。

マルケス 学校教育と社会の差を埋めるには、成績重視の教育から、プロセス重視の教育に変えていく必要があります。この場合、成績は認知能力、プロセスは非認知能力と言い換えてもいいでしょう。生成AIが世間に浸透した今、認知能力の部分では人間に勝算はありません。であれば、人間にしかできないこと——誰かを

安田 古き良き伝統校ほど、先端技術に対する心理的抵抗が強い傾向があります。今後は、新しいものを積極的に取り入れていく貴校のような学校が伸びていくのは間違いのないでしょうね。貴校が理想とする教育をさらに強化するために、これから実現したいことがあれば教えてください。

マルケス ひと言でいえば国際化です。具体的にはアジアを中心に留学生を集めて、本校のある狭山の地をミニ国際社会にしたいです。



西武学園文理中学・高等学校 校長 マルケス ベドロ 先生

1985年、ブラジル・サンパウロ州生まれ。サンパウロ大学総合哲学文学人文科学部日本語日本文学専攻卒業。同大学言語教育センターで日本語講座の講師を務めた後、日本語教育研究やバイリンガリズムに関心を持ち、2010年に来日。早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程に入学し、JSL児童のことばとアイデンティティをテーマに研究を行う。卒業後は西武文理大学で8年間、外国人留学生の日本語教育や日本人学生の英語教育を担当。2023年4月から現職。



2024年4月～キャンパス内に完成した西武学園人工芝総合グラウンド



中学2年生～希望者対象の約3週間のセブ英語学研修～例年学年の3割の生徒が参加



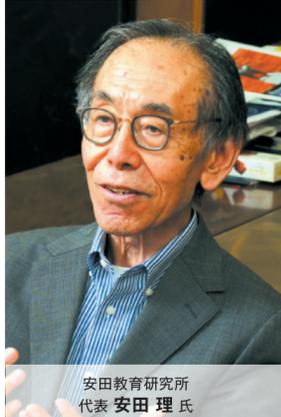
入間川対岸から臨む赤レンガの中学校・高等学校校舎

マルケス いちばんの問題は、「より多くの正解を導き出せる人間を育てる」という日本の学校教育が、実社会とマッチしていないことです。社会で直面する課題とは、正解がなく、すぐに結果が出ないものばかりです。そのような流動性の高い課題に向き合うためには、柔軟な適応力や忍耐力などが必要ですが、従来の教育制度はそれらの力を身につける設計になっていません。与えられたタスクを疑うことなく取り組む動機はあるけれども、その本質を問う視点が欠けているのです。

安田 日本の教育者は、それが当たり前だと思ってるため、その点に気づきにくいところもあるでしょう。先生は国際的な知見をお持ちなので、何をどうしたらいいか、気づかれたのでしょうか。

マルケス 学校教育にAIやインターネットなど、最新のテクノロジーを積極的に取り入れることが大切です。子どもたちにとっては、インターネットはもう一つの現実世界です。本校では、そういう先端技術にどんどん触れる機会を設け、自分に合った使い方を学んでほしいと思っています。

安田 これからは、いかに多くのチャンネルを持てるかが、国際人の資質となっていくといっても過言ではないでしょうね。貴校の取り組みは、どれも生徒のチャンネルに直結するものばかりです。そこで育った生徒たちが、今後どのような飛躍を見せるのか、非常に期待しています。



安田教育研究所 代表 安田 理 氏

東京都出身。早稲田大学卒業後、大手出版社で雑誌編集長を務めた後、教育情報プロジェクトを主宰、幅広く教育に関する調査・分析を行う。教育情報編集部長を最後に同社を退社し、2002年安田教育研究所を設立。講演・執筆・情報発信、セミナーの開催、コンサルトなど幅広く活躍中。著書に『中学受験わが子をつぶす親、伸ばす親』（NHK出版）他がある。

西武学園文理中学・高等学校は、「誠実」「信頼」「奉仕」を校訓に掲げ、高い知性と人間力を備えた、国際社会に貢献できる人材の育成をめざしています。2023年4月、同校初の外国人校長としてマルケス ベドロ氏が就任して以来、同校では次々と新しい改革を推進しています。同校が描くこれからの学校像や、日本の教育の在り方について、マルケス校長と安田教育研究所代表の安田理氏に大いに語り合っていました。

Be the change! -自分の手で、未来を変える-
西武学園文理中学・高等学校

中学校 学校説明会(事前予約制)

9/29(日)・10/13(日)・11/10(日)・12/7(土)

ハロウィン(事前予約不要)

10/26(土)・10/27(日)

※各回の説明会開始時間・内容等の詳細はホームページにてご確認ください。

〒350-1336 埼玉県狭山市柏原新田311-1 TEL:04-2954-4080
https://www.bunri-s.ed.jp/

